



東京都立大学大学院
人間健康科学研究科
人間健康科学専攻
作業療法科学域

Tokyo Metropolitan
University
Department of
Occupational Therapy
Graduate School of
Human Health Sciences
2022



TOKYO
METROPOLITAN
UNIVERSITY

作業療法科学域

ディプロマ・ポリシー

人間健康科学研究科では、大都市で生活する人々の「健康」に関連する研究を重点的に行っている。とくに、東京都立大学の使命である「活力ある長寿社会の実現」に貢献する研究は、本専攻の重要課題のひとつである。幅広い分野の理論や実践的知見を礎に確立された学問体系を基盤とし、それを深化させるとともに、学際的・融合的な研究体制のもと、大学院教育が行われている。健康に関わる様々な分野における「高度実践的専門家」ならびに「先端的研究者」の育成を目指している。

アドミッション・ポリシー

【博士前期課程・全分野共通】

作業療法科学域では、人間を作業的存在と捉えることによって、科学的、社会的、国際的、文化・創造的視点から幅広く作業療法に関する知識の構築を図り、作業療法教育、一般臨床から地域・生活におけるヘルスプロモーションに貢献する実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、

- ・作業療法に関連する幅広い教育力、マネジメント力、そして研究力を身につけることができる人
- ・作業療法の創造的発展に貢献しながら、国際的にも活躍できる可能性を持ち、こうした努力を惜しみなく実行できる人を求めます。

【博士後期課程・全分野共通】

博士後期課程では、博士前期課程における作業療法に関する知識の構築に加え、さらなるその深化を図り、より自立した指導的な実践家、教育・研究者を育成することを目指しています。そのため、自らの専門分野で卓越した知を創出することにより、作業療法の創造的発展に貢献するとともに国際的にも活躍が期待できる人を求めます。

分野紹介

心身機能作業療法科学

本分野は、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的とします。とくに人間心理と活動、生活、環境、文化の視点から新しい作業療法研究、教育、臨床を創造していく意欲と想像力に溢れた陣容で構成されています。質的研究、量的研究はもちろん、混合研究法の発展を踏まえながら根拠に基づく作業療法を確立し、より豊かで開かれた社会と人間真理の追求に貢献できる意欲をもつ「研究者の卵」を広く募集いたします。私たちと一緒に core of human being を探求しませんか。

作業行動科学

作業行動 (Occupational Behavior) や作業科学 (Occupational Science) は作業療法創始者たちの理念を現代化するために提唱されたものです。本分野ではこれらの理論の更なる展開のために、関連する哲学やシステムの発想、行動科学といった諸概念の応用を図ります。そして、作業が人々の健康と幸福にどのように影響するのか探っていきます。本分野では理論の様々な作業療法領域への応用やエビデンスの産出のみならず、作業を通して住民が健康になれるような地域づくりにも積極的に参画して、作業療法の可能性を広げていきたいと考えています。

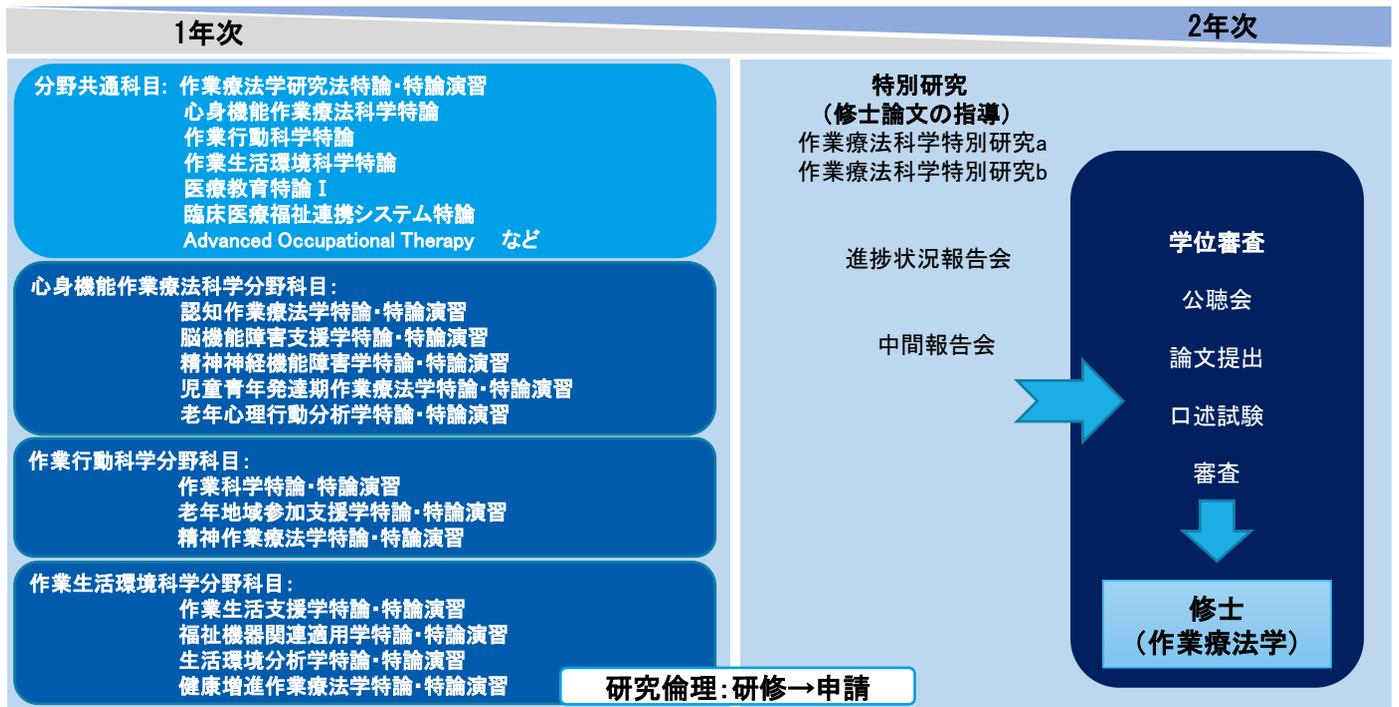
作業生活環境科学

対象者が心から望む作業 occupation を可能とするために、環境へのアプローチも欠かせません。本分野で学修していく環境には、福祉機器・用具や住宅改修などの物的環境、介護家族や専門職スタッフなどの人的環境、サービスや制度などの政策的環境、震災や気候変動などの自然環境、スティグマや社会規範などの文化的環境が含まれます。このような環境がいかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを提案していくのが本分野のミッションです。

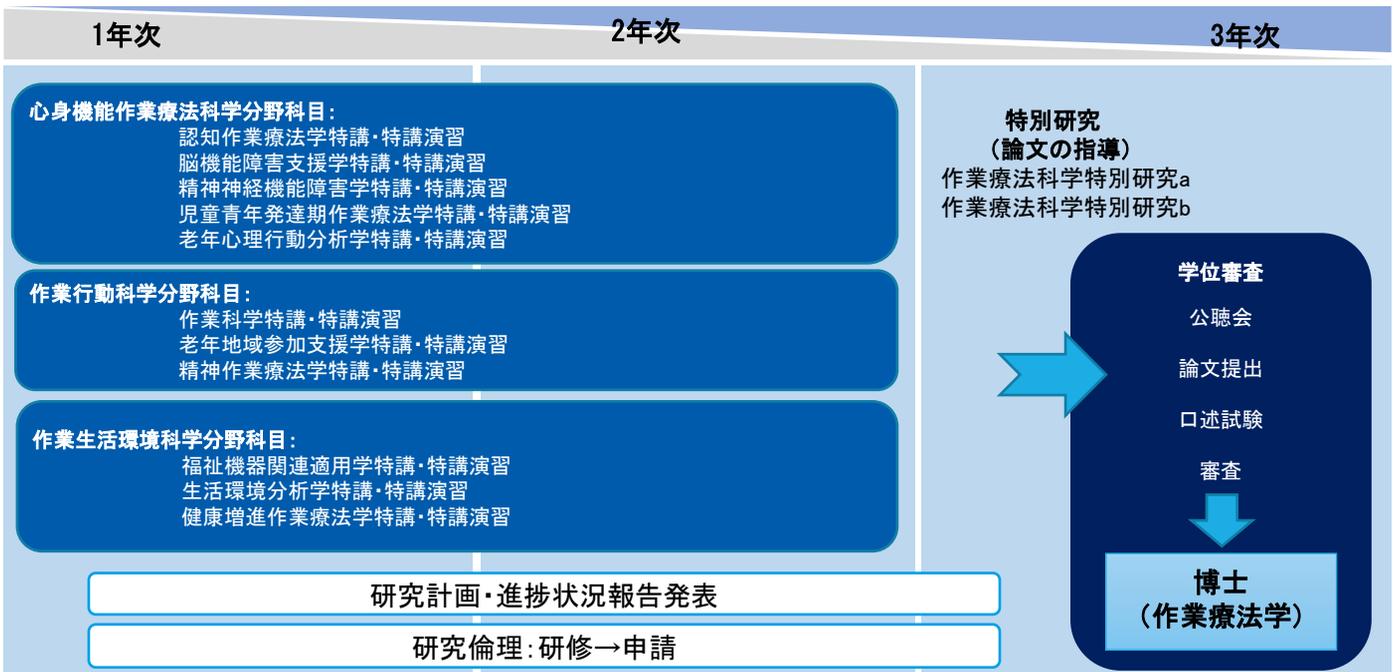
カリキュラム・ポリシー

前期課程、後期課程ともに、変化を続ける社会状況に対応し、新たに出現してきた健康上の問題（健康増進・障害予防）や障害構造の変化（老年期障害、特に認知症高齢者、発達期障害、特に自閉スペクトラム症などの発達障害児・者の増加、及び、地域で生活する障害者の増加）に対処できる教育課程を編成している。特に、地域作業療法学を充実させ、障害を持つ子どもから高齢者に至るまでの多様な人々の地域参加を促進するような教育課程に重点を置いている。なお、社会人学生の就学を支援するために、昼夜開講制を採用し、土日、祝日も開講している。

作業療法科学域 博士前期課程 カリキュラムツリー



作業療法科学域 博士後期課程 カリキュラムツリー



教員紹介

教員名	職位	研究領域
伊藤 祐子	教授	発達領域の作業療法に関する研究、感覚統合理論と実践の効果、発達系における支援機器・おもちゃ・遊具、特別支援教育の作業療法に関する研究
大嶋 伸雄*	教授	身体障害の作業療法、認知作業療法、リハビリテーション・マネジメント理論、多職種連携理論(IPC)・他職種連携教育(IPE)に関する研究
小林 法一	教授	高齢者の地域作業療法に関する研究
塩路 理恵子	教授	臨床精神医学、不安障害および慢性抑うつ of 精神病理学・精神療法・森田療法
ボンジェ・ペイター	教授	作業科学、narrative-in-action(行為の中のナラティブ)や参加型研究法、多職種連携(IPW)と多職種連携の教育(IPE)
石橋 裕	准教授	健康増進事業における作業療法支援の効果研究、化粧を用いた作業療法プログラム(SSPC)の効果研究
井上 薫	准教授	作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発・評価、医療・福祉ロボットの臨床応用
藺牟田 洋美	准教授	高齢者心理学・健康科学・介護予防:介護予防の視点からの閉じこもり高齢者への心理的支援法、中高齢期における健康行動と笑いの研究
谷村 厚子	准教授	精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
橋本 美芽	准教授	高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
宮本 礼子	准教授	functional MRI を用いたヒトの意思決定に関する研究、fNIRSを用いた運動学習能力に関する研究、ペンタブレットを用いた人の書字動作研究
金野 達也	准教授	作業科学、クライアント中心の作業療法介入の研究、IADLに関する研究
須山 夏加	特任 准教授	身体障害の作業療法、作業療法教育に関する国際比較研究、東南アジア地域における作業療法に関する研究、専門職連携・教育(IPW/IPE)に関する研究

学位論文

2021年度 修士論文

筋ジストロフィー患者の就労と就労に関する困難感のアンケート調査 ～職業リハビリテーション質問紙(WORQ)を用いて～
糖尿病患者に対する集団作業療法的介入が自己管理に伴う心理的ストレスに及ぼす影響
自宅退院する60代回復期リハビリテーション病棟入院患者の価値ある作業の認識過程 – 複線径路等至性アプローチの分析から –
高齢者の「通いの場」定着者における支え合いの構造に関する質的研究
大学生における長期休暇中の睡眠の質と生活様式の関係性の検討
短期集中リハビリテーションの対象となる高齢者選定のチェックリストの開発
COVID-19感染拡大状況下におけるスポーツとの結びつき – 青年のバーチャルリアリティゲーム利用を通して –
軽度知的能力障害者の就労支援における作業療法士の取り組み
働き世代にある日本の人々が親の介護者になる移行の特徴 ～親のケアに携わる作業的経験を通して～
ベンガル語版Occupational Self Assessment Short Form (OSA-SF) の妥当性と信頼性
高齢者に対するアシスティブテクノロジー支援の実践に影響する要因: タイ作業療法士の視点から 混合研究法
医療・福祉専門職の視点からみた生活支援におけるコミュニケーションロボットの役割と課題に関する質的検討

2021年度 博士論文

クリックから始める: 自閉スペクトラム症児者への介入における作業発達に対する治療的関係のモデル
うつ病のタイ人成人の社会参加発展のための積極的地域作業療法サービス(PCOTS-D: 作業療法士の視点からのグラウンデッドセオリー研究
最終版「家族介護者の作業適応質問紙」の開発
介護を要する地域在住高齢者を対象とした作業同一性質問紙の計量心理学的特性の検討
回復期リハビリテーション病棟退院3か月後における軽度脳卒中患者の家事再開予測モデルの開発: 多施設共同の前向きコホート研究
カナダ作業遂行測定の上意のある最小重要差の検証
作業療法のクリニカルリーズニング自己評価尺度(SA-CROT)の妥当性と信頼性の検討

作業療法科学域の国際交流

海外への留学・研修

- 英国オックスフォード・ブルックス大学 Oxford Brookes Universityへの短期研修

本学は、2012年に以降、教育・研究の国際交流を継続しています。夏季には大学院グローバルコア医療人材短期研修を実施し、毎年数名の院生が参加しています。この取組みは、本学の院生が英国の大学教員や院生と議論したり、作業療法の現場を見学したりすることにより、自身の研究を異文化の中で多面的に検討し、国際的視野に立った研究実践力を学ぶことを目標としたプログラムです。

- 海外留学

本学大学院（修士課程・博士課程）では東京都立大学の派遣留学生経済支援制度を利用し、2週間から6ヶ月以上の短・中・長期留学が可能です。なかでも、スウェーデンのカロリンスカ研究所とは国際交流、学生・教員交流を継続して行っており、院生がカロリンスカ研究所とかアムステルダム応用科学大学に留学し、教授陣のもとで研究活動を実施し、院生同士の議論、国際学会への発表などを通して、自身の研究テーマをより幅広い視点で探求し、グローバルな研究者としての歩みを進めました。上記の大学以外にも、指導教員のアレンジにより欧米やアジアなど海外の大学への派遣も可能です。

- ユーロマスター(European Master of Science in Occupational Therapy)の履修

ユーロマスターとは、アムステルダム応用科学大学に本部を置き、ヨーロッパの5つの大学により提供される作業療法の修士課程です。ユーロマスターでの科目履修は、修士課程の単位読み替えが可能です。

留学可能な大学 Amsterdam University of Applied Sciences (オランダ)

University of Brighton Eastbourne (イギリス)

Zurich University of Applied Sciences Winterthur (スイス)



留学生の受け入れ

- 東京グローバル・パートナー奨学金を活用した外国人留学生の受け入れ

2012年より博士および修士課程に、アジアからの留学生を受け入れています。

(2018年度から、毎年約2--3名が入学できている) <https://www.thrf.ic.tmu.ac.jp/tokyogp/>

- アジア高度先端医療者育成事業による外国人留学生の受け入れ

2017年度より生活支援機器や環境整備に関連する研究テーマで、アジアからの修士課程学生を受け入れています。将来、東京とアジアの架け橋となる作業療法人材育成に貢献します。

(＊毎年4名が在籍)

国際色豊かな授業

- 大学院科目「Advanced Occupational Therapy」

毎年、海外のさまざまな大学から講師を招聘し、国際的な視点で作業療法を学ぶとても魅力的な機会を提供しています。

- TMU-OT Graduate School International Seminar

留学生のためのセミナーとして毎月1回開催しています。英語でのプレゼンテーションやディスカッションを磨きたい日本人学生も参加しています。

東京都立大学アクセスマップ

各キャンパスの位置と交通アクセス



荒川キャンパス

所在地

〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10

Tel 03-3819-1211 (代表)

所属組織

健康福祉学部、人間健康科学研究科

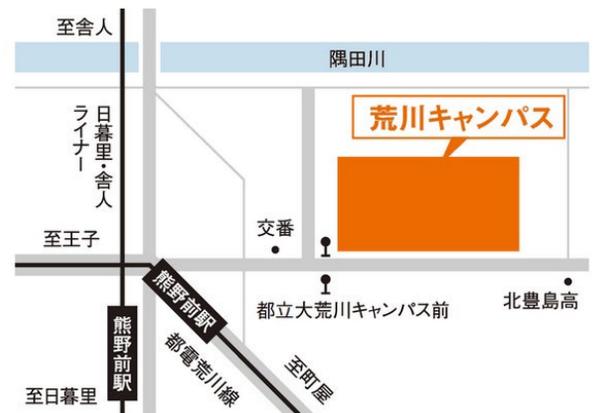
アクセス

日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分

都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分

田端駅から都営バス端44系統「北千住駅行」に乗車

「都立大荒川キャンパス前」下車徒歩0分



南大沢キャンパス

所在地

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

Tel 042-677-1111 (代表)

所属組織

都市教養学部、都市環境学部、人文科学研究科、社会科学部、理工学研究科、都市環境科学研究科、人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域

アクセス

京王線相模原線「南大沢」駅改札口から徒歩約5分

※改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

